



街路樹

社会科の授業改善の視点と実践例紹介



11月

発達障がい教育講座より

社会科において、「問題解決的な学習過程の充実」を通じた授業改善とともに、今、重視されているのが「主権者教育の充実」です。選挙権年齢が18歳に引き下げられ、成年年齢も満18歳に引き下げられました。それらに対応するために、子どもたちに早い段階から「社会問題について考察し、公正に判断する力」、「社会問題の解決に向けて話し合い、合意を形成する力」、「よりよい社会の実現のために国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力」を育成する主権者教育の重要性が高まっています。

「主権者教育において社会科で養う資質・能力」

- 日本国憲法の基本的な考え方や、政治、経済等に関する知識
- 社会的事象について調べまとめる技能
- 社会的事象を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力
- 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力
- 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度

「指導に効果的な教材選定のポイント」

- 児童生徒の実生活上の経験に結び付く身近なもの
(例) 公共施設(図書館)の設置・運営での租税の役割に触れる学習
- 見学や調査活動等を通して自分との関係を実感できるもの
(例) 消防署見学や消防団の方を招いての学習
- よりよい社会を主体的に構想する人々の努力により、よりよい社会が形成されていることに気付くことができるもの
(例) 市の将来について話し合い、市役所の方に提案する学習

詳しくは、文部科学省から出されている「小・中学校向け主権者教育指導資料『主権者として求められる力』を子供たちに育むために」をぜひご覧ください。実践例も記載されています。

8月5日(金)に「発達障がい教育講座(前期)」を、10月5日(水)に「発達障がい教育講座(後期)」を、初任者研修、新規採用養護教諭研修、経験者研修Ⅱの悉皆研修、その他基本研修の選択研修及び希望者の研修として、FR教育臨床研究所所長花輪 敏男様を講師に迎え、2回にわたって研修を行いました。



前期においては、不登校に対する基本的な考え方や解決に向けた学校としての取組みと、児童生徒や家庭への適切な支援について理解を深めました。花輪先生からは、「子どもたちに十分なガソリンがない状態で『がんばれ!』『学校に行こう!』と言っていないか」「ゴールの見えない沖に向かわせていないか。壁(見えるゴール)に向かわせていますか」「1に情熱、2に誠意、3・4がなくて5に技術」という印象的な言葉をいただきました。児童生徒を丁寧に見取ること、教師や保護者の都合ではなく、児童生徒自ら解決するための働きかけであるかを見極めることの大切さを学びました。

後期は、「インシデントプロセスによるケーススタディ」と題して、事例を基に、「自分が担当だったらどう取り組むか」について考えました。花輪先生が用意した事例に対して、研修者が質問を繰り返し、たくさんのエピソードを積み重ね、客観的に児童生徒を理解する大切さを学びました。後期においても「事例検討会を単なる事例報告会にしてはいけない」「何が真の問題なのかを捉え、その子なりの解決策を考える」という印象的な言葉をいただきました。

研修者からは「『あなたを大切に思っている』というメッセージを送り続けたい」「困っているのは児童生徒であり、その児童生徒をそっと支援できるように組織で対応していきたい」といった感想が多く寄せられました。いわきの全ての子どもたちのためにできることについて、組織的に、全職員で取り組んでいきましょう。



研修者からは「『あなたを大切に思っている』というメッセージを送り続けたい」「困っているのは児童生徒であり、その児童生徒をそっと支援できるように組織で対応していきたい」といった感想が多く寄せられました。いわきの全ての子どもたちのためにできることについて、組織的に、全職員で取り組んでいきましょう。



教頭実務研修より



管理職研修の教頭実務研修②が8月29日(月)に実施されました。講師に、「教師を支える会」の代表として、悩める教師に長く寄り添ってこれた明治大学文学部教授の諸富祥彦教授をお招きし、「教職員の働き方改革とメンタルヘルス」についてご講演をいただきました。講演の最初にグループでダンスを行い、身も心もほぐすことからのスタートでした。次に、リレーションづくりの一方法として「雑談」の実習が行われました。3、4人で組んだグループの一人が、最近ハマっていることについて話し、同じグループの人は、話を傾聴しながら、相手がさらに話をしたいだろうことを想像し、質問することで相手の話を深掘りする演習です。「雑談もできない教頭先生に、相談はできない」とのねらいからでした。普段からのコミュニケーションの大切さが再確認できました。「教師は人間関係のプロでなくてはならない」「支え合える職員室を構築するのは教頭先生の大切な役割の一つ」「そばにいただけでほっとできる教師として心の安全基地を目指すことが大切」などのキーワードを基に話がありました。イラッとした場合には、その場をいったん離れて、心を落ち着かせてから対応する大切さについて、「一度口にしてしまったことは取り消せない」との助言がありました。実際に気分を落ち着ける方法として、アロマの紹介や長い腹式呼吸の実演がありました。ユーモアを交えた軽妙な語り口で教頭先生方を応援する気持ちが強く感じられる講演により、出席した先生方からは、「職場の雰囲気作りのヒントをたくさんいただいた。私自身も心が軽くなった」「学校に戻りまた頑張ろうという気持ちになった」「単純に明るい気持ちになれた研修は初めてだったので大変よかった」などの感想が寄せられました。講演の後、教頭先生対象に管理主事から「学校管理運営上の課題について」、主幹教諭対象に指導主事から「学校運営上の課題について」として、2学期の学校運営について確認を行いました。